

ノーサイド

北原 巖 男

核関連施設に対する爆撃をめぐって、両国は、累次の協議を続けて来ていました。協議内容の実態は全く知る由もありませんが、何とか外交交渉による話し合いで、平和的に合意に至って欲しいと願っていました。驚き、失望しました。

37年間イランの最高指導者であり続けたハメネイ師を始め、今回の爆撃で政治家や軍の要人等、多数が殺害されました。ハメネイ師は「イランのみならず、世界のシニア派にとって宗教的な象徴であった。カトリックで言えばローマ教皇を殺したのと同じくらいのものである」(3月6日付、東洋経済オンライン)。「ハックト研究所」アヒール・アル・サマライ師長。

イランは即座に報復に出ました。その対象は湾岸アラブ諸国にも拡がりまし

た米軍・イスラエル軍とイラン軍の彼我の軍事力は圧倒的な差があります。しかし、今なお攻撃と報復の応酬が続いています。学校に通う子供達や一般市民も巻き込まれ、日々犠牲者が増えていることが報じられています。激しい爆撃によって破壊された建物等のテレビ映像を目にするたびに、その瓦礫に埋まった人々のことを思うと胸が痛みます。

ディール

ウクライナへの侵略を続けるロシア、一方的な現状変更を図り覇権的行動を強めている中国の両大国は、どう見ているのでしょうか。

ウクライナへの侵略を続けるロシア、一方的な現状変更を図り覇権的行動を強めている中国の両大国は、どう見ているのでしょうか。

ウクライナへの侵略を続けるロシア、一方的な現状変更を図り覇権的行動を強めている中国の両大国は、どう見ているのでしょうか。

自らの先制攻撃を開始したこの戦いを、トランプ大統領は、いかなる事象の生起を以て勝利宣言し、その勝利の中で停戦する考えなのか。トランプファミリーを含め、いかなるディールを追求しているのか。現時点では、全く見えて来ません。水面下では、停戦に向けたシナリオについて、様々な話し合いが進められているのでしょうか。

ちなみに、ハメネイ師亡き後の最高指導者を含む新しい指導体制は、イラン国民自身が主体的に決定すること、主権国として当然のことです。その新体制は、戦禍で荒れ果てた国内を速やかに復旧し、その復興を図り、今回のような惨事を国民に負わせることの無い、湾岸アラブ諸国ともちろん米軍やイスラエルとも緊張をはらみつつも極めてしたたかに共存して行くことができる政権であることを願って止みません。

こうした中、まもなく高市首相は就任後初めて訪米し、19日にもトランプ大統領と首脳会談を行うことが報じられています。そのトランプ大統領は3月31日から4月2日に中国訪問を控えています。正にギリギリのタイミングで日本の首相が直接物申せる極めて重要な機会です。まさに「女神の前髪」です。国民はもちろん、世界も注目しています。

資源小国の我が国にとって、ホルムズ海峡の安全が確保されることは焦眉の急であり、死活的に重要です。更に、前述のように一方的な現状変更を図り覇権主義的行動を強めると共に、高市首相の「台湾発言」を機に、我が国に対する不当な締め付けを次から次へと執拗に繰り返す、国際社会における日本の孤立化を狙っている中国に対する日本の立場の理解と支持を取り付けなければなりません。それが、アメリカ自身の利益にとっても重要であること

を理解させなければなりません。単に会談の席で取り上げた、申し上げただけはダメです。

トランプ大統領の訪中時、日本の頭越しに、米中協会の会長、(公社)隊友

核関連施設に対する爆撃をめぐって、両国は、累次の協議を続けて来ていました。協議内容の実態は全く知る由もありませんが、何とか外交交渉による話し合いで、平和的に合意に至って欲しいと願っていました。驚き、失望しました。

37年間イランの最高指導者であり続けたハメネイ師を始め、今回の爆撃で政治家や軍の要人等、多数が殺害されました。ハメネイ師は「イランのみならず、世界のシニア派にとって宗教的な象徴であった。カトリックで言えばローマ教皇を殺したのと同じくらいのものである」(3月6日付、東洋経済オンライン)。「ハックト研究所」アヒール・アル・サマライ師長。

イランは即座に報復に出ました。その対象は湾岸アラブ諸国にも拡がりまし

北原 巖男(きたはらいわお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事